

第4回利賀地域義務教育学校設置協議会会議録（要点記録）

【日時】 令和5年1月30日（月） 14:00～16:40

【場所】 先進事例視察 「奈良県下北山村立下北山小中学校」

【出席委員】 委員長 成瀬 喜則 副委員長 松本 謙一
委員 野原 哲二 委員 笠原 一忠
委員代理 南田 哲幸
利賀小学校教諭 岸澤 靖子
利賀中学校教諭 津田 正明

【事務局員】 教育総務課長 氏家 智伸 教育総務課副参事 吉尾 徹
教育総務課主幹 山田 浩司 生涯学習・スポーツ課 西田 誠
市教委センター 川島 正樹

【視察内容】 14:00 白川郷学園概要説明
14:20 授業参観 校舎内視察
15:20 質疑応答
16:40 視察終了

【質疑応答記録】

1 事前質問への回答

○学校の特徴や目標等は、どのようにして決めたのか

下北山小中 保・小・中が連携して「15歳の春」というスローガンを掲げて、一貫した目標をもって子供たちを育ててきた。中学校卒業後に村を出ても困らないように、コミュニケーション能力や社会的な能力を身に付けることを目標としている。学校の特徴については、前教育長が小中一貫教育、義務教育学校を見据えて、各小・中学校に教育方針を示した。保護者や地域住民を含めた小中一貫協議会を立ち上げた。その下部組織として、教育内容検討部会、生徒指導部会、学習指導部会、学校運営部会など4つの部会をもって協議を進めた。

3つの特色①15歳までに育てたい子供像の共有 ②15歳までの一貫性のある教育③学校を核とした地域のコミュニティづくり がある

○制服や体操服、ランドセル（前期課程）通学かばん（後期課程）の採用についてはどのように決めたのか。

下北山小中 体操服、ランドセル、靴については、従来のものを継続して使用。後期課程の制服はブレザー型にしようとする案があったが、PTA総会に諮り変更しないことに決定した。

○地域の方は、義務教育学校開校に向けてどのようにかかわっていたか。

下北山小中 地区の懇談会等を開き丁寧に説明した。その会での質問や疑問に答えていくやり取

りの中で多くのかかわりがあった。

○義務教育学校開校前と開校後で見られた変化について特徴的なものを教えてください。また、現在の地域と学校とのかかわりはどんな状態か。

下北山小中 教科担任制が大きな特徴である。専門性のある授業、個に応じた対応ができる。理科、英語の授業が分かりやすい、子供たちが楽しそうに学んでいると学習参観を見た保護者から評価を得ている。

全校で行う行事、活動を少しずつ増やしている。上級生は下級生の手本となるように、下級生は上級生に姿を見て、あこがれの気持ちをもち目標としている。幅広い年齢層の集団になることで、様々な場面において自分で選択する機会が増えている。

地域とのかかわりは、コロナの関係で今は少ない。これまでは総合的な学習において地域の協力と理解を得ながら進めている単元があった。

○義務教育学校開校前から小学校・中学校の交流があったと想像していますが、開校する前と開校後で小（前期課程）と中（後期課程）の交流の様子にどのような変化があったか。

下北山小中 大きな変化はない。文化祭、マラソン大会、全校朝会など全校で行っている。

○前期課程6年生の活躍の場をどのように設定（配慮）しているか。

下北山小中 運動会や前期課程の集会で、6年生がリーダーになって活動している。今日は、前期課程の全体体育で一輪車発表会の練習をし、前期課程のリーダーとして活躍している。

○「総合的な学習の時間」はどのように取り組んでいるか。（内容や学年ごとのカリキュラムなど）

下北山小中 「ふるさと下北山学」を9年間系統的に進めている。

○部活動の設置状況や活動状況を教えてください。顧問の先生の配置や仕事量など。

下北山小中 後期課程のみ、卓球部、美術部がある。平日は16:00~18:00まで活動している。

水曜日は教職員の研修の日として部活動はしていない。卓球部は、土曜日に練習している。美術は平日のみ。

○児童会、生徒会はどのように運用しているか。

下北山小中 5・6年生が実質、児童生徒会活動をしている。集会の司会や進行、レクリエーション大会の運営などを行っている。

○児童生徒数減少に対して、対策等は講じているか。（他地域からの児童生徒の受け入れなど）

下北山村教委 山村留学を昭和63年から平成23年まで実施していた。少子化のため募集が減ったこと、応募してくる一部の保護者の考え方が変わってきたこと、寮の運営が費用対効果の面で困難になったことなどから取りやめた。現在は様々な移住促進施策を試みている。企業のための補助、移住体験支援、サテライトオフィスの整備などがある。また、他市に転出されないように高校の寮費の補助（月額7200円）や高校生活応援補助金制度を設けている。国の制度で地域おこし協力隊制度を利用した方々のうち、かなりの方が結婚、就職等をして定住している。その方々の子供さんも学校に通学している。

○現状において、課題は何か。

下北山村教委 先生方の年齢構成が、若年層とベテラン層に別れ、中間層がないことが問題の一つである。

2 質疑応答

委員 他校との交流はあるのか。

下北山小中 以前から、上北山の学校と交流授業をしてきた。和歌山県の北山小学校とも交流している。これからはこの3つの小学校の交流も考えている。現在は、オンラインでの交流（道徳の授業）も進めている。また、上下交流陸上を行ってきたが、現在は形を少し変えてスポーツ交流を行っている。

委員 義務教育学校に名前について、他に候補はなかったのか。

下北山小中 「つちのこ」「きなり」などの名前を入れる案もあったが、「下北山」の文字を入れるとの議会の判断で下北山小中学校となった。

委員 議会にいくつか校名案を提示したのか。

下北山小中 いくつか出されていた。

委員 教科担任制は、4年生も行っているのか。

下北山小中 担当時数の関係で5年生までの教科担任制とした。今年は9年生がいないので5年生以上で実施できたが、来年度は後期課程の先生の担当時数の関係で6年生までの教科担任制になる見込みである。

委員 前期、後期課程の授業時間は。

下北山小中 前期は45分、後期は50分で、開始時間をそろえている。前期の休憩時間が15分間、後期は10分間取っているので、後期の先生が、前期の授業に入りやすくなっている。

委員 1村1校では、人事異動がやりにくいのではないのか。

下北山小中 奈良県全域で人事異動が行われている。採用の条件として初任から4年を過ぎたら奈良県のどこかに異動となる。

委員 保育園が併設されているが、どのように交流しているのか。

下北山小中 行事では、運動会を合同で行っている。教員間では人権教育研究会で年に1回交流している。

委員 なぜ運動部活動は卓球部なのか。

下北山小中 上北山にも卓球部がある。近隣中学校にも、卓球部が多い。個人種目であることと他校と交流しやすいことが理由としてあるのではないのか。また、室内競技で1年間を通して活動しやすいこと、この地は、雨が多く冬は寒いという気候もあるため。

委員 利賀の山村留学は留学センターと地域のホームステイを組み入れて実施しているが、このやり方はどう思われるか。また下北山は地域おこし協力隊の定着がうまくいっているが、どのような対策があるのか。

下北山教委 下北山の山村留学は、センター方式で実施してきた。里親方式は検討されていなかったのではないのか。地域おこし協力隊については、3年間の任期後に、国の企業制度や村の制度を利用して起業し、村に残っている方の例がある。地元の方と結婚し定住された方もいる。

委員 4年生にもリーダーとして活躍する場があると聞いたが具体的には。

下北山小中 1階に教室のある子供たち（1～4年生）のリーダー役として、集合時にまとめ役となったりして活躍している。1階のリーダーは4年生という意識を持たせている。